

【小論文】

1. 設問（1）は、与えられた資料を読み、限られた時間内に的確に問題の所在を読み取ることとを求める問題です。問題文や【資料1】のマオリ女性の温泉入浴拒否という具体的事例から、入れ墨を入れている人の入浴を拒否することの是非が問題の一端であることは、解答者の多くが容易に気づくものと思われま

す。ただし、このような表面的な問題にとどまらず、その背景には、以下のような点が問題として存在していることを各資料から読み取り、示すことが求められています。

例えば、①本来、入れ墨を理由に入浴を拒否する趣旨は、暴力団を排除することや他の客が恐怖感等を抱くことを避けることが目的であったところ、入れ墨がタトゥーとして世界的に流行したことにより、入れ墨を入れている人が必ずしも暴力団と関係があるとは限らないという状況が生まれたこと、②外国ではそもそもタトゥーを入れていることは珍しくはなく、訪日外国人の増加に伴って、タトゥーを入れている訪日外国人の入浴希望者が増加しており、外国人を迎え入れる側として新たなルール作りが必要となっていること、③温泉は日本の文化の1つであるが、タトゥーを理由に一律に入浴を拒否すれば、外国人が日本文化に触れる機会を奪うことになるうえ、場合によっては、外国の文化や風習を否定していると受け取られる可能性もあること、④他方で、日本人のなかには【資料2】のように、入れ墨に恐怖感を抱く人も少なくなく、また、暴力団排除の本来の趣旨から、無条件に誰にでも入浴を認めることもまた難しいことなどが読み取れるでしょう。

2. 設問（2）は、これらの問題を前提として、解答者自身が入浴施設の運営者であると仮定して、入れ墨を入れた外国人の入浴に関する新たなルールを具体的に考えることが求められています。【資料3】や【資料4】には、タトゥーを隠すシールを配布するという案も示されていますが、この解決策にもまた問題がないわけではありません。

解答者は、すでに資料中で示されている案に加えて、どのようなルールが考えられるかを検討することが求められます。その際には、設問1で読み取った問題点のどの部分を解消するため、あるいは誰の利益を保護するためのルールであるのかを示すことも必要です。例えば、入れ墨に対する威圧感や恐怖心は、入れ墨の大きさとも関係しており、暴力団に関係する人の入れ墨は一般的に広範囲に入れられているとすれば、デザインタトゥーか否かを問わず、一定の大きさの入れ墨については先述のシールを貼ることによって対処するという方法も一定の効果が期待できる案ということになるでしょう。そのほか、団体でなければ周囲への威圧感は軽減できるという理由で入れ墨を入れている利用者が1名の場合や、伝統的な風習としての入れ墨であるとの説明がある場合に認めるといったルールも考えられます。いずれも単にルールを示すだけではなく、そのルールによってどのような問題点を解消しうるのかを多角的に検討できている答案が高い評価を得ることになります。

以上